

第2回 雪害に強い果樹産地づくり検討会 議事概要

1 日時：令和8年5月28日（木）13:30～15:20

2 場所：東北農政局7階会議室（オンライン併用）

3 検討会構成員

（東北農政局管内6県）

三上 一哉	青森県農林水産部りんご果樹課長
伊藤 一成	岩手県農林水産部農産園芸課総括課長
石原 寛之	宮城県農政部園芸推進課技術副参事兼総括課長補佐（代理出席）
長澤 正士	秋田県果樹試験場天王分場 主任研究員（代理出席）
安達 栄介	山形県農林水産部園芸大国推進課課長補佐
大高 圭申	福島県農林水産部園芸課主幹兼副課長

（農林水産省）

羽石 洋平	農産局果樹・茶グループ長
○岩崎 光徳	技術会議事務局研究統括官付研究専門官
宇佐美 直樹	東北農政局生産部園芸特産課長

（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

◎岩波 宏	果樹茶業研究部門リンゴ研究領域長
-------	------------------

◎：座長 ○：座長代理

4 議題

中間とりまとめ（骨子案）について

5 検討会における主な意見

（1）りんごの雪害に強い栽培方法の導入促進

- ・技術的対策カタログには、果樹生産者の判断に資するよう、収量などの経営面で参考となるデータも記載することとしてはどうか。
- ・省力樹形の導入に関しては、園内作業道の確保や、樹単位での更新という観点もあるのではないか。従来の技術で雪に対処してきているが、雪害の防止や軽減のためには、園地に行けるかどうかも課題。
- ・雪害対策も含めて周年で作業を行う果樹園の作業を請け負う農業支援サービス事業体を作ることはできないか。

（2）日本なしの雪害に強い栽培方法の検討

- ・日本なしの実証試験に当たっては、狭い範囲で単収を上げたいという生産者の意見を踏まえ、V字ジョイント仕立てで行えればと考えている。
- ・主枝高を高く仕立てる場合には、苗木を養成する期間が長くなったり、作業が大変になったりすることも踏まえて検討する必要があると思う。

(3) 苗木の供給力強化

- ・JM1 台木については、りんごの生産者等に情報が届いていないのではないか。苗木業者も需要がないと作れないので、りんごの生産者等に情報が伝わるようにすることが重要ではないか。
- ・苗木業者に、りんごの生産現場での樹形や品種などの需要の情報が伝われば計画的に生産していくと思う。
- ・苗木業者に増産をお願いしたい数量を示すため、果樹の生産者に対し需要量調査を行うこととしており、県内外の苗木業者に要望したいと考えている。
- ・苗木は他県から供給されており、農林水産省において県域を越えた苗木のマッチングを後押しする相談窓口を設置していただけるとありがたい。また、果樹の生産者のニーズの把握のほか、苗木の供給体制の強化についても検討していく必要があると考えている。
- ・りんごの生産者が苗木を生産する県の取組の先行事例を情報共有していったら良いと思う。

以上